第１回教育委員会（定例）議事録

1　開　会

令和７年４月 23 日（水）　14 時 02 分

2　場　所

市役所第２庁舎３階　2-301・302 会議室

3　会議に出席した委員

教育長	丹後　政俊
委　員	西田　正志
委　員	鈴木　友美
委　員	吉良　佳晃
委　員	倉　真智子

4　会議に出席した職員

学校教育部長	酒井　寛興
こども未来部長	田中　正典
社会教育部長	中野　悟
学校教育次長	小嶋　拓也
教育総務課長	山内　俊秀
学校教育課長	石井　健一
教育研究所長	﨑田　真宏
東部学校給食センター所長	糸川　尚子
西部学校給食センター所長	畑岡　俊成
子育て企画課長	山鳥　有史
保育教育課長	山田　康弘
中央図書館長	田中　真紀子
市史編さん課長	小畠　理三
田園交響ホール館長	酒井　直隆
中央公民館長	竹見　朋子
教育総務課副課長	近成　和泉

5　議事日程及び議案

別紙の通り

6　開会宣言

14 時 02 分

7　会　期

（自）令和７年４月 23 日　（至）令和７年４月 23 日　１日間

8　会議録署名委員名簿

西田正志委員

9　閉　会

16 時 32 分

丹後教育長	日程第1、令和6年度第13回会議録の報告、承認について意見等はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第2、会議録署名委員は、1番西田正志委員を指名する。
丹後教育長	日程第3、会期は令和7年4月23日、本日1日間とする。
丹後教育長	日程第4、承認事項に移る。承認第1号「丹波篠山市教育委員会事務局の内部組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について」教育総務課に説明を求める。
山内課長	《議案書に基づき説明》
西田委員	学校教育課の教職員係は非常に重要な係で、市教委の権限である県費負担教職員の服務監督、教員免許状の更新の事務、定期異動の時の定数のカウント、内申事務など煩雑な事務を行ってきた。本来は必要な係であると思っているが、1係になったということで、もう一度事務分掌を確認いただき、業務の滞りがないようしていただきたい。
丹後教育長	承認第1号「丹波篠山市教育委員会事務局の内部組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、承認第1号「丹波篠山市教育委員会事務局の内部組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について」を承認する。
丹後教育長	日程第5、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課に報告を求める。
近成副課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告2「後援名義の承認について」教育総務課に報告を求める。
近成副課長	《議案書に基づき報告》
西田委員 山内課長	キッズマネースクールが実施する「はじめての投資」とはどのような内容か。

	金融教育の一環で、投資の基礎知識や会社を運営する流れを、子どもたちがカードゲームを行いながら体験をするものである。社会における金融の仕組みをゲーム感覚で学ぶものである。
丹後教育長	報告３「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課に報告を求める。
小嶋次長	《議案書に基づき報告》
倉委員	その他（不良交遊・危険遊戯・指導不服従等）について、令和５年と令和６年で比べると倍以上になっている。特に秋から増えているが、何か原因があるのか。
小嶋次長	５年度と比較して、学校現場の状況が特段悪化しているとは認識しておらず、どちらかといえば、学校における認知の感度が上がったと認識している。
西田委員	指摘については、丁寧に報告されたことで件数が増えたということが実態だと思われる。 年度末においては、１年間を振り返って問題行動の概観の報告があるべきと考える。小・中ともに、対教師というよりは生徒間、児童間のトラブルが多かったように思う。不登校については、危惧しているが思ったほどは増えなかった。極端な犯罪行為や非違行為は、この１年はなかったというのが私の概観であるが、できれば年度末はそういうことも報告いただきたい。
小嶋次長	報告９校長会の報告の中で、報告する予定である。
丹後教育長	報告４「民間通所施設（オルタナティブスクールふえっこ楽校）の再認定について」学校教育課に報告を求める。
小嶋次長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告５「令和６年度学校評価報告書について」学校教育課に報告を求める。
石井課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	今までからこの様式で報告いただいていたのか。
石井課長	まとめをより分かりやすくするために、形式は同じで見やすさを工夫した。
西田委員	急遽、教育総務課にお願いして、元の評価書を出してほしいと言ったのは、評価項目に学校が何を挙げているかについて、当初資料では見えなかったからである。原本については、体系的に教育目標、今年の重点目標があり、その中で評価が記載されているので、分かりやすいと思う。まとめは、かなり抜粋されている部分があると思う。

	幼稚園についても総じて言うと、20 校中 6 校がＣとＤの評価となっている。Ｃはやや課題が残る、Ｄは改善を要するという評価である。幼稚園の方は、こども園も含めて課題がある園は 1 園だけであった。私の経験では、こういう学校園を作りたいという考えを持って経営に望むと、必ず課題が出てくると思っている。1 年間で課題がなかったということは自分にはなかった。マンネリ化しないようにしつつ、全体を俯瞰するものとして、適正な評価をしてほしい。やや課題が残る、改善を要するという評価が 1 園しか出てこないのは、本当にそうなのかなと感じる。 目標設定面談の中の自己評価で、謙遜されて悪い評価を付けられていても、「教育委員会が見ていたら、こういうところを頑張っている」との評価も、もちろん大事であると思う。
小嶋次長	ＣとＤの評価についても、学校長がいろんな質問紙の学校評価に基づいて、評価をしているところがあると思う。今後は、そういった学習評価の観点だけでなくて、目標設定面談等での理想とする学校運営方針に基づいて、自分自身で足りない部分についても考えていくような評価を勘案していくことも、現場等に伝えていければと思っている。
丹後教育長	報告 6「令和 6 年度丹波篠山市学校運営協議会の総括について」教育研究所に報告を求める。
﨑田所長	《議案書に基づき報告》
西田委員	かなりの予算をつけていただいてやっている事業なので、ぜひ毎年の繰り返しにならないように、年度ごとに成果と課題を把握して、次のステップに進めるように、担当も十分に考えて取り組んでいってほしい。 コーディネーターの育成や、委員が 1 年交代でなかなか議論が深まらないこと、行事中心になってしまうこと、熟議が深まらない等、課題は以前から変わらない。恒久的な課題であるのかもしれないが、よく精査し、事務局として、手法の提示や事例研修会等に取り組まれたい。 コーディネーターについては、篠山フィールドステーションへ行って、地域おこし協力隊の人に入ってくださいと頼みに行ったこともあった。地域おこし協力隊の活動を見ていると、それぞれに熱心にされている。学校だけでなく運営協議会と連携すれば、もっともっと広がっていくと思う。そういうきっかけづくりができるのは事務局であると思うので、努力してほしい。 それから、課題に記載のある地域学校協働本部との両輪化については、文科省は、コミスクと両輪で、地域協働活動の中にもコーディネーターを置いて連携してやりなさいというやり方であるが、丹波篠山はこれが動いてないと思う。仮にここに書くのであれば、両輪化のために何を丹波篠山市で取り組んでいくかという方針がないと、意味がない。社会教育と連携して、どこがどう足りないのか協議をしてほしい。

﨑田所長	新たな事業も各協議会で検討して、少しずつ進めている中で、外部団体との連携が非常に重要な視点であると思っており、今後の研修会等を通して、各協議会に伝えていきたい。 両輪化の話については、社会教育課と今後の在り方について検討していく予定である。
西田委員	そうなると予算の話がついてくるので、その枠組みから考えていく必要があると思う。文科省はコミスクと両輪でやっていくように言っており、継続的に協議して、改善するところがあれば、改善をしていってほしい。担当していたときも、難しいと感じていた部分であり、よろしくお願いしたい。
丹後教育長	続いて、報告７「令和６年度幼稚園・こども園学校評価報告書について」保育教育課に報告を求める。
山田課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	西紀きた幼稚園の基本的生活習慣の定着がＤとなっている。一つの家庭のことで苦慮されたとのことだと思うが、幼稚園がしつけの場になっているという書きぶりに違和感がある。その家庭のことだけを見て定着をＤとするのではなく、ほかの園児たちも含め総合的に判断し、評価するものであると思う。
山田課長	昨年度も同じＤ評価で、ご指摘のとおり、ある一家庭の問題によるものである。この家庭については、幼稚園だけではなく、社会福祉課の家庭児童相談室も、過去から関わってきた家庭である。日常の家庭生活の多くの場面で保護者に指導しているがなかなか改善が見られていない状況の中で、園としてはできることをやろうということで、校長が先頭に立って頑張っていただいた。この評価がＤ評価でいいのかという点については、個人的にも別ではないかと認識しているが、園長の思いとしては園としてできなかったという判断での評価になっていると理解している。
倉委員	基本的生活習慣というと、排泄、清潔、衣類の着脱、睡眠などもできていないということか。これを見ると、睡眠の方に重きがあるのかなという気がする。
山田課長	全てにおいてになる。朝は遅れてくる。御飯を食べていない。服は毎日同じものを着ている、お風呂も入っていない。体を洗ってあげたり、洗濯をしてあげたり、できる限りのことは、園でされていたと聞いている。
倉委員	子どもが自ら身につけるというのが基本的生活習慣の段階になるので、今聞いていると、保護者の問題であると思う。
山田課長	親自身の問題でもあるが、子ども自身も特に支援が必要な部分もあるので、両面と理解している。
西田委員	学校として努力はしたがなかなか改善が見られなかったではなく、１人の子どものことでＤ評価は、少し違うのではないか。指導主事との連携も必要

	ではないか。
山田課長	指導主事とも連携し、しっかり見直せるようにしていきたい。幼稚園だけに限らず、兄弟もたくさんいる家庭で、小学校や中学校も関連している。また、西紀きた幼稚園で発生したアタマジラミにも絡んでいる問題でもあり、学校教育部、幼稚園、小学校、中学校そして家児相で話し合いも行ったが、解決に至っていない現状である。この件については、今年度も、課題が出てくるのではないかと考えており、後手に回らないように連携をしながら、課題解決に向かって取り組んでいきたい。
丹後教育長	報告８「丹波篠山市子育て支援アドバイザーの就任について」子育て企画課に報告を求める。
山鳥課長	《議案書に基づき報告》
鈴木委員	令和６年度の実績について、中川さんの体調不良で中止になったことは分かっているが、11 月 24 日と３月９日について、ＳＮＳで宣伝はあったが、開催したとの報告が全くなく、どういった内容だったのか。
山鳥課長	予定では年間５回の実施を計画していた。第１回目が７月７日に実施した「子育てを楽しむには」という事業、９月１日は「大人気キンダールーム設立」ということで、中川智子さん自身がキンダールームという子育て支援の場を作られたことについてのお話を予定していたが、台風接近により急遽中止した。その後、11 月 24 日に「女の子だからスカートってどうして」、１月 25 日に「子育てを通して思うことは」という演題で予定していたが、中川さんの体調不良により、この２回については、募集をすることなく中止とした。最後の５回目は３月９日に自治会長と地域の方を対象に講演会を実施した。全５回のうち、実施できたのがこの２回になる。
鈴木委員	ＳＮＳでの報告について、第２回目の３月９日分は今後もする予定はないのか。
山鳥課長	改めて、皆さんの感想などを含めた報告について、情報発信を検討する。
鈴木委員	令和６年度は全５回あったものを令和７年度は年１回に減らしているが、内容は決まっているのか。
山鳥課長	これから調整を行うが、年１回の子育て講演会については、地域の方と共に子育ていちばんのまちをつくっていけるような機運を高める講演会を実施してはどうかと考えている。 年２回実施するものについては、保育園・幼稚園・こども園の先生と話し合いをしながら、保護者向けの研修会や職員向けの研修会、講演会というようなものを計画している。
丹後教育長	報告９「令和７年度４月小・中・特別支援学校定例校長会について」学校教育課に報告を求める。

小嶋次長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告 10「令和７年度４月保育園・幼稚園・こども園長会について」保育教育課に報告を求める。
山田課長	《議案書に基づき報告》
鈴木委員	園長会次第の１ページで、5 歳以上児の「以上」というのはどういうことか。
山田課長	表記としては５歳以上児となっているが、基本的には５歳児のことになる。
丹後教育長	報告 11「令和６年度学校給食異物混入状況について」学校給食センターに報告を求める。
糸川所長	《議案書に基づき報告》
西田委員	ダニが入っていたことについて、検査機関から報告があったときに、本人や保護者への連絡はどうなっているのか。
糸川所長	ダニの混入については 3 月に起こったことで、その際は学校へ連絡はしている。
西田委員	学校、学校長への報告後、そこから先は分からないのか。
糸川所長	学校から保護者に伝えていただくように依頼をしている。
西田委員	文書で保護者に連絡してくださいということは校長に言ってあるのか。
糸川所長	口頭でしている。
西田委員	実際に保護者や本人に対して説明があったかどうかは、センターとしては確認してないということか。
糸川所長	していない。
西田委員	説明については、どのレベルでしないといけないかの判断は非常に難しいと思うが、健康被害が懸念されるような場合は当然するべきであると思う。今回のダニというのは印象が悪い。子どもに対しても、保護者に対しても説明があった方が良いと思うので、基準は難しいが検討してほしい。
糸川所長	今後も起こりうることであると思うので、検討をしていく。
丹後教育長	報告 12「篠山・たまみず・岡野幼稚園の統合に係る保護者アンケートの実施結果について」子育て企画課に報告を求める。
山鳥課長	《議案書に基づき報告》

西田委員	1人の意見でも非常に貴重な意見であると思う。「入園受付時に統合する可能性があれば教えてほしかった」との意見は、統合は、市、市教委の論理だけではなくて、こういうことを考えないといけないと改めて思った。アンケート結果を精査して、説明すれば分かるもの、誤解があるもの、それ以外に貴重な意見、耳が痛いことについても真摯に受け止めて、どうするかを考えてほしい。貴重な意見で本当にありがたい。
丹後教育長	報告13「令和6年度丹波篠山市立中学校卒業時の進学状況について」教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	何が何でも市内の進学率を上げればいいということではないことをしっかりと押さえながら、子どもの進路を考え、希望、意思を大事に考えつつ、市内の高校のよさも知ってもらい、オープンハイスクールにも行き、自分の目で確かめて決める。そういう道筋をつけていきたいと思っている。
丹後教育長	報告14「丹波篠山市教育振興基本計画策定委員会の進捗状況について」教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
倉委員	43ページの乳幼児教育の充実のための五感で、「味覚」が2つある。「視覚」の間違いではないか。
丹後教育長	37ページの基本理念のところで、今までは「一人一人が光り輝き、生きがいをめざす」であった。日本語として生きがいを目指すというのはどうかとのご意見をいただき、基本理念は変えず、言葉の表現を変えた。ウェルビーイングを反映して、人生学ぶ目標、その目的も幸せということを意識しようということにした。 下の項目の二つ目について、今までは、「学びの機会を充実し、生き生きと活躍できるまちづくり」であったが、活躍できるかどうかは本人の努力だけではなく、いろんな環境にもよるということで、活躍を目的とするのではなく、生きがいを感じて生きる、そういうまちをつくっていくということで表現を変えている。
西田委員	市の総合計画でも、「いつまでも健康に生きる」というような項目があった。例えば80、90歳になれば悪いところも出てくるものなので、健康というのはどうかということで、生きがいとかそういう言葉に変えられたらどうかと言った。「幸せに生きる」と変えることは悪くないと思うが、幸せとは何かということを、理屈づけをしておかないといけないと思う。周りから言われたときに、理念として押すのであれば、「幸せというのはこういうもの

	だ」という理論を構築しておかないと、5年間継続していくものなので、イメージだけでなく、こういうことだというのを持っておいた方がいいと思う。 　また、事務局から提案されたものをそのまま受け入れるということになってしまわないように、これをいついつまでにメールで返しなさいというやり方は良いと思う。
山内課長	最終的には注釈を追加する予定である。
西田委員	市民に示すものであり、専門性が高く仕方がない部分もあるが、市民が分かるような注釈を入れていくことは、必要なスタンスであると思う。
丹後教育長	報告15「教育長報告」について報告する。 　P.30以降にスケジュールを記載しており、いろんな会議、入学式等に出席した。 　P.34・35は4月の校長会で話をした7年度の教育方針である。2月の校長会で丹波篠山の教育の全文を出して説明しているが、新たに校長になられた方もおられるので、再度示した。 　「もっとつながる丹波篠山の教育」ということで、つなげる、つながる、輪を広げることを意識し、今まで先代が培ってこられた丹波篠山の教育のよさを次の世代につなげる、教育に関わっていただく人の輪をもっとつなげていく、いろんな方が教育に関わるというのは、先生や保護者だけではなく、子どもたちにとっても、市民にとってもプラスであると思うので、そういう教育に関わる人の輪を広げよう、つながりを広げようということを意識してやっていく。 　そして、もう一つ大きく言っているのは、自己肯定感。変化の激しい社会なので、そこで子どもたちに必要な力は、様々な問題に積極的に自分で立ち向かい、多様な人と協働してよりよい解決を図って未来を生き抜いていく力であり、そういう力を発揮するためにも原動力になるのは自己肯定感、達成感含めて自己有用感などである。自分で自信を持って進んでいくエネルギーが大事であって、自己肯定感を育むためには「認める」「ほめる」「はげます」ということが大事であり、いろんな機会を通じ子どもたちが自主的な主体的な活動ができるようにし、肯定的な声かけをしていく。 　戦後80年ということで、命を大切にする教育、自分他人の命、心と体と命を大事にして、命を守るということをより一層しっかりしてやっていく。 　令和の日本型に自然体験、地域活動体験をプラスした「令和の丹波篠山型学校園教育」を進めていく。 　最後にP.35では、「ウェルビーイング」。精神的な幸福が持続する状態を目指していく、そしてそれぞれ個人が幸福に暮らせることで、社会全体まち全体をウェルビーイングが循環し合った社会にしていきたい。 　これをもとにそれぞれの学校の教育目標も定めていただいていると思うが、一緒の方向を向いていこうということを呼びかけている。

	以上で、本日の審議は全て終了する。 これをもって、第１回定例教育委員会を終了する。